

# 市長と語る会を

## 開催しました

問合せ先 統合政策課秘書係 ☎22212

昨年10月6日から20日まで、市長と語る会を市内6地区で7回開催し、市民の皆さまと市政に関する意見交換、質疑応答を行いました。今回は主な内容をご紹介します。また、皆さまからの貴重なご意見を、今後の行政運営に反映できるよう努力してまいります。



### コロナ対策

**Q** コロナ対策と経済の両立。コロナリスクで経済活動を停滞させるより、注意して経済活動の発展を。

**A** 今回、安全をとるか経済をとるかではなく、やや安全にウエイトを置きながら経済を回すことを考えました。コロナの中で、密ではなく、疎を武器にして工夫してまいります。

### 新庁舎建設

**Q** 新庁舎の規模を縮小して、防災等だけは河内に移して、行政サービスは今の所ではどうか。

**A** これまでの流れは尊重し手続は粛々と進めてきました。ただし、様々な市民の声はうかがっており、技術的な課題もあります。課題を解決せずに大きなステップは踏めません。次の段階に行くには、市民の声を聴く必要があると思います。

**Q** 新庁舎事業は、老朽化と津波対策が必要。敷根公園駐車場の一部を使って、早く、安く、安心安全を担保した

案はどうか。利便性問題は、道の駅などに窓口や郵便局へ委託をしたらどうか。

**A** 早く決めたいと思っており、立ち止まってもいいですね。市民の方からは、様々な意見をいただきました。

**Q** 浸水地は大きな問題ではない。進入路も学校の裏から入れる。現在の計画地で早期に作ってほしい。

**A** 貴重な意見として承ります。※皆さまからのご意見や新型コロナウイルス感染症による財政面への影響等を踏まえ、今年度の事業執行は延期しました。

### 環境・景観

**Q** 景観を損ねる廃船（稲生沢川、大川端）、廃虚（富士屋ホテル、グランドホテル等）への対応を。

**A** 基本的には所有者が処理すべきもので、先立って行政が対応することはできません。危険な物件は対応すべきですが、危険性の評価等の分析が必要であり、その庁内会議を始めました。

**Q** 和歌の浦遊歩道の崩落の早

期改善を。  
**A** 問題意識は持っています。「財源がないからできない」では先に進みません。完全復旧でなく、とりあえず通れる方法を考えています。県の技術的支援を受けて、今動き始めています。

※昨年11月25日、通行可能になりました（夜間通行止め）。

**Q** 伊豆縦貫道開通に合わせ、里山整備、道の駅の設置などの環境整備を。

**A** 地元による地元のためのものができることが望ましいです。乱開発を防ぐためには、稲梓地域を都市計画区域に含めた方が良く考えています。

**Q** 有害鳥獣害対策について、頑張る農業を支援している人たちがダメージを受けている。罾を増やすなど市でできることを。

**A** 専門家を呼んで、意見を聞いて新しい対策を練ります。地域おこし協力隊で新しく来る方が、狩猟免許を持っています。このような方や専門家の力を借りて進めてまいります。

### その他

**Q** 公共交通の方向性は？

**A** 中学校の統合に併せて走らせる通学バスを、通学のみ利用するのは望ましくありません。通学、通院、買い物など全体的に公共交通を立て直す検討を始めたばかりです。難しい課題ですが、中学校統合の令和4年までには何らかの形を作りたいです。

**Q** 文化や芸術への行政的なサポートとして、文化会館の使用料減免を。

**A** 文化振興は地域の品格につながります。三島由紀夫のように下田を愛してくれていた人を活用したいです。使用料のサポートについて、全てにサポートすると文化会館が破綻してしまうので、お金ではなく、仕組みのサポートをしたいです。文化を盛り上げ、観光客を増やし、税収を増やす経営的戦略も必要です。文化で地域おこしできないか意見交換の懇談会を計画しています。

※昨年11月18日に第1回文化まちづくり懇談会を実施しました。

### 海水浴場運営

**Q** 今夏の振り返りと来年度への課題は？

**A** 白浜の違法業者については、毎年パトロールを行っているが、何十年も解決しない。A コロナ禍において観光客を受け入れる安全対策を行いました。観光客と市民のどちらもが安全対策した結果、夏期の感染者を出さずに終わりました。

**A** 違法業者との話し合いは、大きなチャレンジです。今後にも参加してもらい、今後の海水浴場運営について検討していきたいです。

**Q** 夏期海岸対策事業について、開設ガイドライン、ライフセーバーの契約、規約、予算配分等の見直しを。

**A** コロナ禍での今夏の夏期海岸対策の判断が正しかったかどうかはわかりませんが、各区での議論のおかげで、夏期の感染者を抑えこむことができました。これらを教訓として、ガイドラインの見直しをしなければいけないと考えています。

**Q** 第5次総合計画では、人口減少に対して積極的な対策はあるか。

**A** 総合計画については、20年程前は明るい未来になるよう作っていましたが、人口減少により、「身の丈に合ったもの」を作成しなければなりません。定住人口を増やす足がかりとして、関係人口を増やしていきたいです。

### 公民館

**Q** 稲生沢公民館を廃止しないしてほしい。廃止の場合は、代替措置を。

**A** これまでのプロセスで決まったことを変えるには正当な手続が必要です。安全性維持管理のコストの問題が解決できれば、見直すことはできると考えます。公民館は「つながる」という意味では大事な場所。市役所だけでなく地域の皆さんと考えていきたいです。

**Q** 朝日公民館廃止後、有償で良いので利用を継続したい。

**A** コストダウンをした上で機能強化した利用方法を検討してまいります。

**Q** はまぼうボードウォークの早急な復旧処置を。

**A** どういった解決策があるか考え、知恵を出して取り組んでまいります。

### 防災対策

**Q** 耐震性の問題で街中の避難ビルが減った。避難場所（下田幼稚園）まで逃げられない人もいるため、高齢者に配慮し再度見直しを。

**A** 現在ある建物は活用すべきです。沖合防波堤の減勢効果も期待され、利用できる建物が増える可能性もあります。個人宅の耐震が進まず、倒壊により道が塞がれることも懸念されます。

### 産業経済・人口減対策

**Q** ワークেশョン拠点施設は既存施設等（あずさ山の家、下田港の民間施設）を活用した安価な整備ではダメか。A ワークেশョンの概念は我々が創り出すものです。下田のワークেশョンをブランド化したいと思っています。下田はワークেশョンのトップランナーです。まずは、旧樋村医院を拠点にし、次に進めます。